

# 「まちづくり」とはどういうことなのかを改めて考えあいました 東京のまちづくり活動トピックス

今回のまちづくり講座は、「まちづくり」の基礎講座編として、そもそも「まち」を「つくる」とはどういうことなのか、「まち」とはどこからどこまでなのか、どうして生協が「まち」に関わるのか、改めて「まちづくり」とはどういうことなのかをお話していただきました。講演を聞いたあと、参加者同士で語り合う「まちづくりカフェ」の時間も設けました。

日時: 2021年7月28日(水)  
13:30~15:30

開催方法: Zoom

主催: 東京都生活協同組合連合会

参加人数: 73名(参加生協14 他団体5)

## 「まちづくり」の基礎講座編

### なぜ生協が

### まちづくりに関わるのか



講師: 三浦 一浩さん

(生協総合研究所 研究員)

## まちを「つくる」ってどういうこと?

### 「作る」「造る」ではなく「つくる」からイメージできること

モノづくり、空間づくり、場所づくり、仕組みづくり、ルールづくり、くらしづくり、仕事づくり、ヒトづくり、コトづくり。または、「つくらない」という選択が「つくる」につながることも。参考: 田村明『まちづくりの発想』(1987年、岩波新書)

### 「つくる」中でも大切なのは「つながりづくり(仲間づくり)」

まちの中で様々な活動が取り込まれるなかで、まちに関心を持つ様々な人が相互に、重層的に、つながりをつくるのが重要。

「まちづくり」はその目的ではなくプロセスにこそ意義がある。  
ゴールや数値目標があるわけではない。

自分のまちを守りたい、きれいにしたい、居場所をつくりたい…まちづくりの形は様々。

- ・福祉のまちづくり
- ・農のあるまちづくり
- ・環境まちづくり
- ・防災まちづくり
- ・景観まちづくり
- ・交通まちづくり など



「まちづくり」の世界ではかなり有名な事例となっている「長野県飯田市のりんご並木」は、戦後すぐに中学生がまちをきれいにしたいと植えたもので、今も思いはつながっている。

## そもそも「まち」って何?

### ひとはどこを自分の「まち」だと思うか

自分の住んでいる「まち」をどのようにとらえるかは人それぞれ。どこに通勤、通学をしているか、親しい人はどこに住んでいるか、普段どこで買い物をしているか、利用できる交通手段は何かなど、様々な理由から思い描く「私のまち」のイメージは異なる。

### 「まち」=自治体ではない

それぞれが思い描く「まち」のイメージが多様であるのと同様に、それが地図上に勝手にひかれた線に過ぎない自治体の境界と一致するとは限らない。

### 「私たちのまち」をつくる

「まちづくり」のひとつのプロセスは、それぞれが思い描く「私のまち」を様々な活動を積みかさねる中で、共通の「私たちのまち」として重ね合わせていく作業。

「まちづくり」という言葉には、「まち」はただそこに住むだけの場所ではなく、そこに住む人たちがつくっていく場所という意味が込められている。

### 「つくる」のもうひとつの意味

自分の住む「まち」のことを行政などにお任せにするのではなく自分たちで「つくる」(参加する、主体的に関わっていく)ことが重要「まちづくり」は「自治」。

## どういふことに気を付けたらいい?

—協同組合原則から—

### 生協が「まち」に関わるのは当たり前?

生協が「まち」に関わることは必ずしも当たり前ではない。なぜ私たちはそこに関わるのか、本当に関わった方がいいのか議論をした上で地域社会に関わるのが重要。

#### コミュニティへの関与

『協同組合は、組合員によって承認された政策を通じてコミュニティの持続可能な発展のために活動する。』組合員のニーズや願いであることが大事。第7原則

#### 「自治」と「自立」

「自治」と「自立」は協同組合だけでなく、様々な活動において重要なポイント。行政と協働することは重要だが、行政の下請けではない。

第4原則

#### 協同組合原則

#### 協同組合間協同

協同組合だけでなく、様々な市民の活動が協同することが重要。

互いに補い合うネットワークの中心に生協はなれるはず。

第6原則

#### レイドロウ報告

1980年に国際協同組合同盟の大会でアレキサンダー・レイドロウが報告した『西暦2000年における協同組合』が協同組合原則に大きく影響を与えた。

さいごに、三浦さんが思う「まちづくり」とは…

ここで一生を終えたいと思えるまちを、みんなで楽しみながら少しずつ作り上げていく、それこそがまちづくり

### 【アンケートの感想より】

- ・「まちづくり」というマジックワードを多面的な視点でかみ砕いてご説明いただいたことで自分の認識のすり合わせをするとともに考えを深めることができました。ハードのまちをイメージする人もソフトをイメージする人も様々いるのだと思いますが、個人的にはあらゆる総体の関係性のデザインの話なのだと思えることができました。
- ・人口減少や高齢化が進むことにより、生協の社会での役割はもっともっと重要にならなければならないと思います。『ボローニャ紀行』の引用のような社会を生協間の枠を超え、創ることができたら…理想ですね。